

古事記

めぐり旅

Vol. 4

身近な場所にある古事記ゆかりの地をめぐってみませんか？



いそのかみ

石上神宮

神の剣が祭神の日本最古級のお社

『古事記』にも『日本書紀』にもご祭神とともにその名を残し、「神宮」を称したのは伊勢神宮と石上神宮のみ。日本最古級の神社が石上神宮です。

「東方にすばらしく美しい土地がある」。大和を目指した神武天皇一行が全軍壊滅の危機に陥ったとき、天から降ろされた剣・布都御魂大神が救います。剣にみなぎる「起死回生の力」で元氣を取り戻した一行は、大和を平定。剣は宮中で祀られた後、石上神宮に鎮座したと記されます。

石上神宮のご祭神は三神です。この布都御魂大神、そして十種の神宝からなる布留御魂大神。もう一つ、須佐之男命がヤマタノオロチを退治したと伝わる霊剣・布都斯魂大神です。



- ① 石上神宮拝殿
- ② 出雲建雄神社

「石上神宮」

石上神宮へは、天理駅より奈良交通バス首原(ちしゃわら)行き乗車「石上神宮前」下車、南東に約600m
※バスの本数が少ないので確認のうえお出かけください。

〒天理市布留町384 ☎0743-62-0900

石上神宮例祭「ふるまつり」

📅10月15日(水)10時～

神事の後、ご神体を載せた御鳳輦や騎馬の武将、貴人らによる豪華時代行列が、拝殿から市内片道約4kmを渡御する。

三祭神のうち、二神が剣。さらに教科書にも載る名高い剣、国宝指定の七支刀も社宝として伝わります。

石上神宮は軍事を司った豪族・物部氏の総氏神。ヤマト王権の武器庫も兼ね、多くの武器が宝蔵されたところとされる。勇壮な神話に彩られる神宮に、かつて本殿は無く、拝殿奥の禁足地に主祭神が埋斎されたと伝えられてきました。

そして明治7年。神話の宝が今の世に現れます。当時の大宮司がこの地を発掘したところ、まさに伝承どおり。古墳時代中期とされる剣や銅鏡、勾玉など多数の宝が出土しました。「ご神体」はその後に造営された本殿に鎮座しています。



「拜殿」
現存最古の拜殿は国宝指定。後方には剣先状の石端垣で囲まれた、「御本地」と呼ばれる禁足地が広がる。

「撰社 出雲建雄神社」

ヤマタノオロチの尾から出た神剣、「三種の神器」の一つである草薙剣の荒魂、出雲建雄神を祀る。拜殿は国宝。



大古事記展

五感で味わう、堂と創道の物語

「大古事記展」(10月18日から県立美術館で開催)では『古事記』ゆかりの神社が所蔵するご神宝を展示します。石上神宮からは七支刀(国宝)などが出品されます。七支刀は身の左右から枝刃を造り出した特異な形をした剣です。身の表裏に金象嵌(きんざうがん)で表された銘文があり、泰和四(369)年に百濟王が倭王のために造ったと解釈されています。七支刀は我が国と東アジアの交流を物語る貴重な宝物でもあるのです。七支刀の関西での1か月にわたる展示は10年ぶりです。お楽しみに。

展示期間:10/25～11/24(この期間以外は複製品を展示)

国園ならの魅力創造課 ☎0742-27-8975 FAX 0742-27-7744



しちしどう
七支刀
(石上神宮蔵)